

元町の会 精神科研修パート2でのポジティブな意見

- ・認知症の方にとっては関わり方でかなり対応結果が違ふ。大きな声は好ましくない。
- ・認知症があっても食が大切。食が安定的に供給されると落ち着くことがある。
- ・早目の専門医への受診と内服の確実な服用が認知症状を改善。
ポイント “穏やか” “緩やか”
- ・モンスターと思っていた介護者に率直に「不安があるんでしょう」と相談員が聞いてみたら良い関係が出来、信頼関係を築けた。初めから諦めずかかわり、心を開いて信頼関係を作ることが大切。
- ・認知症の方とはなじみの関係になることが大切。ご家族ともなじみの関係になる。
「覚えてもらう工夫が必要」→何回でも訪問したり、顔を覚えて頂くことが大切。
- ・在宅において薬局は大切なパートナー。もっと薬剤師をうまく使って在宅を続けていってほしい。
- ・認知症予防に嗅覚刺激（アロマセラピー、良い香り）が良いと言われている
- ・研修から、どうしてこんな薬を使うのか、どうしてこの薬を使うのかという家族の質問にこたえることができるようになった。
- ・元気になったが、転倒することがあったので薬の調整の難しさと観察の必要性を知った。
- ・認知症で、ベッドから動けないよう寝かされていた方が、車いすに乗せ環境を変えたとお薬が必要なくなった。
- ・認知症対応で、相手を認め、家族を認め役割を担って頂くことが大切。
- ・認知症の家族で決定できない家族の場合、本人周囲の関係者など周囲との良い関係作りが必要。
- ・デイケアで料理を体験していく内に自宅でも料理が出来る様になった。
- ・役割を持っていただく等があればよい。“関わり、関係が人を作る”
- ・薬の調整について相談できる所や人を持つことが大切。（どこからが不穏？どのような時に薬をどんなタイミングで服用してもらえばいいのか？）
- ・認知症の患者さんとの接し方では、壁や嫌な印象を作らないようにすることが大切
- ・認知症の方でも相性があるのでその相性を考えるよう気を付けている。
- ・認知症の方の気分を大切に気分が盛り上がるようにしている。
- ・認知症があっても趣味があるので、それを知ってリハビリなどにつなげてやる気を持っていただく。
- ・認知症の方の家族や地域友人などのかかわりや交流を知ることがたいせつ。
- ・家族の思いや悩みを聞いて、共感してもらえるDrは有難い。
- ・主治医に内服の管理が難しい（残薬が多い）認知症の方の話をしたら分3を朝、夕に変えて頂けたありがたい。
- ・写真や日誌などを使い時間や日にちを把握する事は有効
- ・「環境を変えたり寝食を分離」したら認知症薬の内服をやめることができた。
- ・かかりつけ医が認知症の方に薬を処方するより、「餅は餅屋で」というように精神科もしくは専門医受診された方が良い。
- ・経験上、魚を食べている人の方が認知症になりにくいように思う（青木先生）
- ・銀杏のフラボノイド（24%以上含有が良い）ドイツのシュワーベンが良いと聞いた。